「ツマグロヒョウモンに見る未来！」

校長　小髙　敏男

土曜日、日曜日も含めて４４日間の休みが終わりました。どんな夏休みを子供たちは過ごしたのでしょうか。真っ黒に日焼けして元気に登校してきた子供たちの姿を見て、充実した夏休みを送ったのかなと思い嬉しくなりました。

今年の夏も昨年同様に、３５度を超す猛暑日が続きました。日本の気温が３８度や４０度を超える気候となった地球は、どれほどつらいのか？人間は、体温が１度２度上がっただけでも寝込んでしまうのに・・・と考えてしまいます。近年、台風や記録的豪雨等の自然災害に見舞われた地域も多くあり、痛ましい被害が日本各地に起こっています。その報道には、「観測史上記録的な･･･」「これまでにない･･･」という言葉が多く聞かれます。世界的にも森林火災や砂漠化が急速にすすんでいる地球を考えると、待ったなしという感じです。私は、今何をしなければならないのかと思い、ゴミの分別や３Ｒ、無駄を無くす夏休みの生活を送ることぐらいしかできない自分を不甲斐なく思いました。しかし、できることから最善を尽くしていくことが大切であるとも思います。

「過去と現在を比べると未来が見えてくる」と言いますが、近年の自然災害のニュースを見るたびに、未来を危惧する方も多いと思います。１０年ほど前までは、気温が低くてプールができるか心配することはあっても、暑すぎてプールができるのかと心配することはありませんでした。地球全体の異常気象から、環境の変化の速度に危機感が高まります。日々の生活に忙殺されがちですが、身近な変化にも気づき、一人一人ができることから改善していくことが大切だと思います。

今回は、身近な昆虫に着目してみましょう。地球温暖化の問題が叫ばれて久しいですが、その深刻さは、環境の影響を受けやすい植物や昆虫に大きな変化を見ることができます。左の写真は、最近大泉でもよく見かけるツマグロヒョウモンという蝶で、１５年ほど前までは、関東にはほとんどいなかった蝶なのです。私が若い頃には、この綺麗な蝶を求めて四国や九州に採集旅行に行ったほどです。その他にも、アカボシゴマダラやムラサキツバメなどの南の暖かい地方に生息していた蝶が、最近大泉で見られるようになっています。迷蝶と言って、台風などで南方に生息する蝶が関東で発見されることがありますが、迷蝶は普通、関東の自然環境には適応できないために繁殖することはありません。しかし、ツマグロヒョウモンなどは冬を越して自然繁殖しており、明らかに環境が変化していることを証明しています。

炭鉱で有毒ガスの発生に気づくために小鳥のカナリアを作業中に連れて行く「炭鉱のカナリア」という言葉がありますが、これらの蝶は、まさに「炭鉱のカナリア」です。よく見かける蝶が、自然環境の変化を教えてくれています。生活改善の重要性を感じさせてくれます。

子供たちには、植物でも昆虫でも気候でも何でもよいのですが、変化に気づき、未来をよりよくしていくために自分たちが何をしていかなければならないのかが分かる人になってほしいと願います。そして、自ら改善していく実行力のある人になってほしいと思います。さらに、一人ではなく仲間と共に力を合わせて未来を切り開いていける人になってほしいと切に願います。学校は、集団で学ぶ場です。だから、三つ目の「仲間と力を合わせられる」子供たちを育成していくことができる場なのです。

二学期も、教職員一同、一丸となって子供たちの健全育成のために力を尽くしてまいります。

最後に、災害で亡くなられた方のご冥福を祈ると共に、被災された地域の一日も早い復旧を願います。